

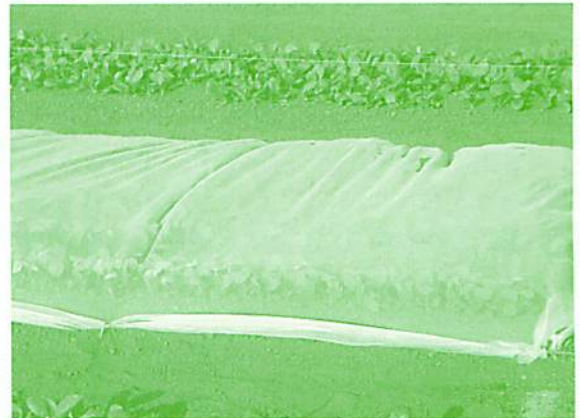
スーパーソフトネットを利用した環境にやさしいコマツナ栽培

野菜作物研究部

県内で栽培が盛んなコマツナ等の軟弱野菜類では、農薬を用いない害虫防除技術として防虫ネットが利用されています。そこで当センターでは、最近県内で開発されたトリコット編み被覆資材（商品名：スーパーソフトネット）と不織布被覆資材（商品名：パオパオ90）や平織り被覆資材（商品名：サンサンネットソフライト・目合い0.6mm）を、露地コマツナ栽培の収量、品質に与える影響や防虫性について比較しました。

その結果、トリコット編み資材で被覆することで、キスジノミハムシ、ナモグリバエなど微少害虫を他の資材と同等以上に効果的に防除できることがわかりました。また、品質も年間を通じ同等で、春・秋作では生育を促進し、防風資材としても有効でした。伸縮性に富むことから、べたがけにも好適でした。

このように、新しいジャンルのトリコット編み資材は、既存のいずれの資材とも異なる特性を持ち、コマツナの周年栽培等で省農薬・無農薬栽培に有効な被覆資材であることがわかりました。ぜひご検討ください。



スーパーソフトネットによるべたがけ栽培のコマツナ

新しい茶産地で一番茶の摘採をしました

足柄地区事務所

茶は今まで丹沢山麓周辺の中山間地域の基幹作物として栽培されてきました。

しかし、既存の茶産地は傾斜地で畑の形状も不定形のところが多く、乗用型管理機には向かない産地でした。そこで、県では平地の乗用型管理機を前提とした新しい茶産地の育成を図っており、現在、開成町、愛川町及び中井町の三地域で取り組んでいます。

足柄地区事務所では、この三地域で座談会による産地形成や栽培講習会による栽培技術指導等に取り組んでおり、新しい茶産地として順調に発展してきています。茶樹の生育も順調で、開成町と愛川町では今年植栽4年目で、最初の一歩茶の摘採を迎えることができました。計画通り乗用型摘採機を使用し、摘採時間は30分/10a程度と可搬型摘採機と比べ非常に効率よく摘採されました。



開成町での一番茶摘採

開成町で生葉960kg/60a、愛川町で生葉470kg/50aが摘採、加工されました。まだ、完全な成園ではなく収穫量は少ないですが、愛川町では荒茶単価4,000円超/kgが見込まれ荒茶の品質は良く、初めての摘採ということで生産農家の喜びはひとしお大きいものでした。今回の初出荷は、既に取り組んでいる農家には大きな励みとなり、また、周囲への波及効果も期待されるようです。